

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 3.5 ワークショップをアンケートからふりかえる

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-01-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤原, 孝章 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00008325">https://doi.org/10.15021/00008325</a>

## 3.5 ワークショップをアンケートからふりかえる

藤原 孝章  
(同志社女子大学)

要旨：開催時にとった毎回の参加者アンケートを、2010年から2014年までの5年間、354人分の文章記述を対象に分析した。分析の視点は、参加者の所属、参加回数、ワークショップについての肯定的、否定的ないし改善意見、獲得された学び、学校や授業への転移の可能性である。最後に、評価の視点や転移の可能性をみる項目を入れた新しいアンケートの提案を行なった。

キーワード：アンケート、記述分析、評価、学びの獲得、学びの転移

### 1 アンケートの内容

アンケートによる調査は、2006年から2014年までの9年間において、毎回実施されている。ただし、博学連携教員研修ワークショップ10年の前半のまとめと報告をすでに、『学校と博物館でつくる国際理解教育』（中牧・森茂・多田編、2009年、明石書店）において公刊しているので、本稿では、それ以後の2010年から2014年までの5年間のデータ、354人分の記録を対象とすることにした。

アンケート用紙は、所属と参加の回数、参加したワークショップについて選択式回答、および感想・意見の自由記述という四つの項目からなっている。

### 2 参加者の所属（学校種別）

5年間の全回答者354人でみると、所属先で多いのは、順に、高校、小学校、支援学校、学生・院生である（表1、図1）。ただし、支援学校教員は、大阪府教育委員会の新任研修のプログラムに入っていることから2013年が突出している。2014年が極端に減少しているのは他の大阪府のプログラムとぶつかったのではないと思われる。また、学生・院生は、2012年が突出している。そうすると平均して参加が多いのは、いいかえればメインの参加者層は、小学校、中学校、高等学校の教員ということになる。また、数は非常に少ないが、MMPや博物館関係者、大学教員（特に2012年以降）、学生（2012年は例外的）も、一定して参加が継続していることがわかる。

表1 参加者の所属先 (2010年～2014年)

所属	人/年	2014	2013	2012	2011	2010	合計	割合 (%)
小学校教員		16	23	5	14	13	71	20.0
中学校教員		11	8	6	7	6	38	10.7
高校教員		13	21	8	17	23	82	23.2
支援学校教員		4	25	5	7	9	50	14.1
大学教員		4	4	4	0	0	12	3.4
博物館関係		2	5	1	3	3	14	4.0
学生・院生		6	4	22	8	6	46	13.0
M M P		2	2	3	3	3	13	3.7
その他		12	8	1	5	2	28	7.9
合計		70	100	55	64	65	354	100.0

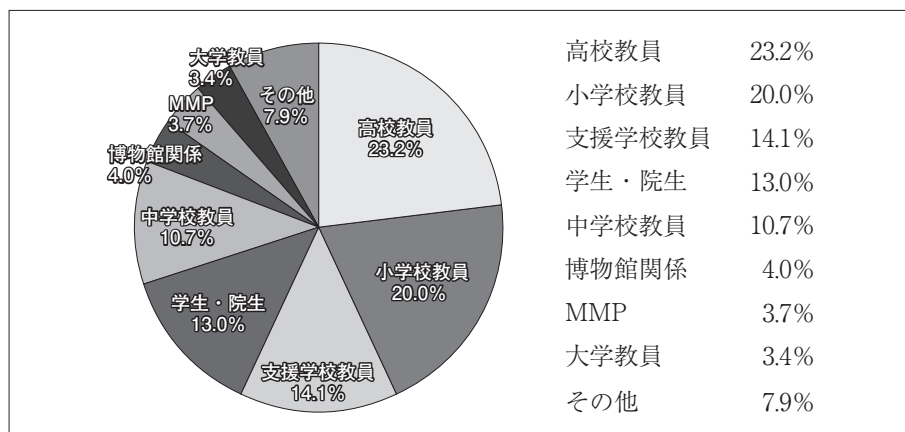


図1 参加者の所属内訳 (5年間)

### 3 参加回数

参加回数 (表2, 図2) は, 毎回, および, 5年間全体でみても, 8割前後が「はじめて」(1回目)の参加である。2回目以上の参加者, つまりリピート率はおよそ2割ということになる。自由記述を見ると, 「よかった」「楽しかった」「来年もきたい」といった肯定的な評価が多い。

では, 2割前後のリピート率をどう分析したらいいのだろうか。当日のアンケートの感想の一過性, 体験の印象性を過小に評価すれば, つまり, そのときは感動的であったが, 1年経った時には印象が薄れていたり, 他の所を優先したりしたと考えれば, 「2割のリピート率は妥当である」といえる。逆に, アンケートの自由記述により積極的な態度や意思決定を見るのであれば, 「リピート率は2割しかない」となる。具体的な質問項目を用意していないので, 結論的にはどちらともいえない。

表2 参加回数 (2010年～2014年)

人/年 参加回数	2014	2013	2012	2011	2010	合計	割合 (%)
1回	50	86	45	48	50	279	78.8
2回	11	6	6	10	9	42	11.9
3回	2	3	1	1	2	9	2.5
4回	3	2	1	2	2	10	2.8
5回	2	2	2	3	2	11	3.1
6回	1	0	0	0	0	1	0.3
7回	1	0	0	0	0	1	0.3
8回	0	0	0	0	0	0	0
未記入	0	1	0	0	0	1	0.3
合計	70	100	55	64	65	354	100.0

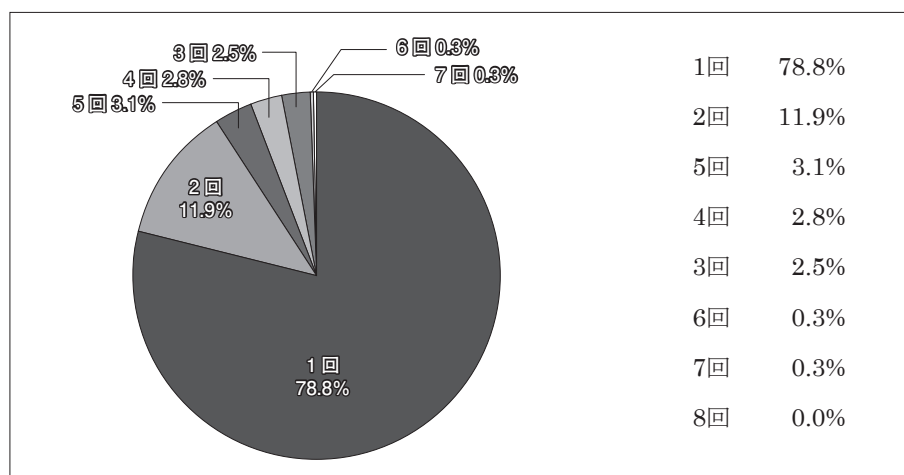


図2 参加回数内訳 (5年間)

なお、付け加えるなら、5回以上を記入しているのは、MMP (みんぱくミュージアムパートナーズ) の方々であり、毎回ワークショップで紹介しているために、リピート率が高くなっている。

## 4 ワークショップ

5年間のワークショップを表3に示した。ワークショップの数は、毎年六つ程度で、5年間で延べ32である。各ワークショップは、参加者の希望によるグループ分けをし、定員を超えた場合は他に移ってもらっていることもあるので、どのワークショップは人気があるのかという議論はあまり意味がない。また、各ワークショップは3年連続の開催を原則としているため、各年度の過不足はあっても、5年間で見れば偏りがあるとも

いえない(表4)。

自由記述をみると、参加者が自らが参加したワークショップについて感想や印象、学びを記述しているケースが多いので、担当者には参考になる記述もある。そのために同じ内容を複数回実施し、ワークショップ自体の習熟をはかることができています。

表3 各年度のワークショップ

2014年	<ul style="list-style-type: none"> <li>①みんなくシアター：「多みんぞくニホン」を体感する</li> <li>②一粒のカカオ豆から</li> <li>③「みんなく」で世界と教室をつなごう！</li> <li>④ことばと文化への目覚め</li> <li>⑤「すごろく教材」で異文化理解</li> <li>⑥モノとの対話—何が聞こえる？何が見える？</li> </ul>
2013年	<ul style="list-style-type: none"> <li>①みんなくシアター：展示の登場人物になってみよう！</li> <li>②「フェアトレード」ってなあに？</li> <li>③「みんなく」で世界と教室をつなごう！</li> <li>④「ことばへの目覚め」のための教材開発</li> <li>⑤ものづくりとiPadを用いた現地学習</li> <li>⑥すごろく教材で異文化理解</li> <li>⑦歌と踊りで語りつく南の島の物語Ⅲ</li> </ul>
2012年	<ul style="list-style-type: none"> <li>①仮面をつくって語って異文化理解</li> <li>②歌と踊りで語りつく南の島の物語Ⅱ</li> <li>③さわっておどろく「手学問のすゝめ」</li> <li>④民博シアター：展示から劇活動へ</li> <li>⑤「すごろく教材」で異文化理解</li> <li>⑥機織のカラクリ大発見</li> <li>⑦学芸員になる！世界子ども環境ポスター展づくり</li> </ul>
2011年	<ul style="list-style-type: none"> <li>①民博のデジタル・コンテンツを利用した授業づくり</li> <li>②仮面をつくって語って異文化理解</li> <li>③歌と踊りで語りつく南の島の物語</li> <li>④自分の希望を叶えるエケコ人形</li> <li>⑤ことばで「世界」を見てみよう</li> <li>⑥「見方」を開発—インドの染織資料が見えてくる</li> </ul>
2010年	<ul style="list-style-type: none"> <li>①民博のデジタル・コンテンツを利用した授業づくり</li> <li>②仮面をつくって語って異文化理解</li> <li>③「思いを込めた音」って何だろう？</li> <li>④ことばの不思議・魅力</li> <li>⑤裏側みせませす—「じゅうたんをつくろう！」を通して</li> <li>⑥コーヒーモノガタリ—みんなく編—</li> <li>⑦アフリカ・アカン系民族「砂金秤の分銅」づくり</li> </ul>

表4 ワークショップ別の回答者数 (2010年～2014年)

人/年 ワークショップ	2014	2013	2012	2011	2010	合計
シアター	13	9	3			25
カカオ豆	14					14
みんなぱっく	12	15				27
ことばと文化	13	16				29
すごろく教材	8	12	2			22
モノとの対話	10					10
フェアトレード		14				14
ipad, もの		11				11
歌と踊り, 南の島		23	15	10		48
機織			11			11
ポスター展			2			2
仮面			8	6	9	23
手学問			14			14
デジタル				7	5	12
インド染織				8		8
ことばで世界				16		16
エケコ人形				17		17
音					19	19
じゅうたん					4	4
コーヒー					8	8
砂金秤					8	8
ことばの不思議					7	7
未記入, 複数					4,1	5
合計	70	100	55	64	65	354

## 5 自由記述

5段階のスケール評価をしていないため、記述回答の印象論的な分析になってしまうことをあらかじめ断っておく。また、教員の属性、参加回数、参加したワークショップとクロスさせた集計も考えられるが、数量的なスケール評価がないため、記述された感想・意見、評価と属性との相関を見ることはできない。

自由記述については、内容を総覧した上で、1.肯定的な記述、2.否定的記述もしくは改善意見、3.ワークショップ関連記述、4.学校や授業への転移可能性を示す記述の四つのカテゴリーに分け、分析してみた。いうまでもないことだが、これら四つのいくつか混在している記述もある（なお記述例のゴシックは引用者によるものである）。

## (1) 肯定的な記述

参加者の多くが初心者であり、このような教員研修ワークショップの体験ははじめてであるので、5年間で32のワークショップが実施されているが、特定のワークショップの善し悪しについての記述は少数で、総じて「参加してよかった」「楽しかった」「わくわくした」「新鮮だった」「博物館が身近になった」「本物に触れた」などの記述が圧倒的に多い（各記述回答の番号は便宜的に付したもので、ゴシックは記述の特徴を示すものとして引用者がつけた）。

### 1) 2014年の記述例

1. 普段じっくりと考えたり、触れたりすることのない世界に入ることができました。何も知らないなー。こんなに詳しく調査したり研究したりすることによって、すごいなーと思いました。そして、そんなものに出会えた人たちは素敵だなと感じました。多文化・国際理解というのは表面上ではできているつもりでも、心の奥底ではできていないものなのかな、と感じてしまうこともありました。一日ありがとうございました（シアター、1回目、小学校、2014）
2. 国際理解教育の手法を知ることができました。また、ヒントをたくさん見つけることができました。これからは教員対象の研修・ワークショップを期待しています。（すごろく、3回目、小学校、2014）
3. わくわくしながら参加することができました。子どもたちにこのわくわくを伝えていきたい。子どもたちがお互いが尊重できるきっかけになると思った。（カカオ、2回目、小学校、2014）
4. 「文化を科学する」ことの面白さを感じることができました。これを生徒たちにどのように伝え、世界や文化への学びのきっかけを作るか考えたいと思います。（ことば、中学校、1回目、2014）
5. 今日は来て良かった！と何度も思いました。学び、文化、コミュニケーションなど、今まで追いかけてきたテーマがずっと落ちたような体験の連絡でした。非常に多くの専門家とスタッフの方々を支えられて、素晴らしい環境のもと、とても完成度の高いワークショップでした。自分の教室でできるかどうか、分かりませんが、ぜひトライしてみたいと思いました。ぜひ、民博のリソースを教育に打ち込みたい！と思いました。非言語的で、右脳のでもとお感覚に訴えるような、資源がたくさんなので、民博をテコにして、あまりに“右脳の”に偏りすぎた日本の教育に風穴を開けられるのではと思います。（シアター、1回目、中高一貫校、2014）
6. 以前から民博には何度も遊びに来ていましたが、今回モノを見て学ぶだけでなく、人と人、人とモノが交わり、対話する場だと学べ実感できたのは新鮮でした。ただ、普段の展示場で他人に話しかけ交流するのは難しいので、この感覚が持続でできるかは……。ぜひ民博の皆様にはこうした交流の場の仕掛けをしていただけるとありがたいです……。 （ことば、1回目、学生・院生、2014）

### 2) 2013年の記述例

1. どのワークショップも大変魅力的で1つ選ぶのに苦勞しました。来年度も同じ物が残っているとよいのですが…教員の研修は理論が中心であることが多いので、このような体験型のワークショップは非常に魅力的で、感動をそのまま教室へもち帰り、子ども達に還元していきたいという気持ちが強く湧いてきた。（歌とおどり、2回目、小学校、2013）

2. 何度も当博物館には来させていただいたことはありますが、今回のようなイベントに参加して新しい民博の魅力を感じました。ワークショップも楽しく学ぶことができ、「みんなっく」を利用した学習のアイデアもたくさん出ました。今回は尼崎小学校国際理解教育研究会の研修として参加させていただきました。ありがとうございました。来年もぜひ参加させていただきたいと思います。(みんなっく, 1回目, 小学校, 2013)
3. 今日学んだことは、ぜひ子ども達にも伝え、考えることの楽しさ、伝え合うことの楽しさを、教えていこうと思います。本当に楽しいワークショップをありがとうございました。(シアター, 1回目, 小学校, 2013)
4. 考えて、想像して、表現する、ということは、やってみると、とても楽しい。他の人として、話をするのである意味、自分自身が、本音を意見として出すより、気持ちが高揚する、初めて会った人とも、いっぱい会話できた。自分がその人になるということで、展示されている人との距離はぐっと短くなる。具体的に、ちゃんと詳しく、注意深く、展示物を観るし、考える、もっと深く、知りたいとも思う。短く切って、演じるなど、技について教えていただいたものも勉強になった。自分できちんと勉強して、またワークショップをうけてみたい。先生方、スタッフの皆様、ありがとうございました。(シアター, 1回目, 高校, 2013)
5. 魂の解放でした！こんな楽しい思いを自分の生徒とも共有したいです。また、一緒に踊ったことで、打ち解けることができました。座ってお話を聞いているだけでだと、絶対こんなに深いところまで話せなかった気がします。他のWSの様子がmovieのおかげでよくわかりました。ノウハウをぜひ教えてもらいたいです。Museum ツアーの指導がもう少し分かりやすいとありがたいです。(立っているだけの方がいらっしゃって…) (歌とおどり, 1回目, 高校, 2013)
6. 民博がどのような形が学校とつながろうとしているのか興味がありました。展示を見ているだけでは気づかないことも教材化することで、生徒の興味を引く素材になりそうです。今回は特に武器をアートにの展示に心を打たれました。ちょうど松山市内を自転車で巡ったばかりでしたので、あの自転車がこのアートになったのだと思うと、またそこに至る人々の努力を思うと言葉が出ませんでした。フェアトレードのWSは経済原理の通用しない取引をどう説明するのか興味があって、参加しました。理解へのヒントをたくさんいただきました。(フェアトレード, 1回目, 高校, 2013)
7. 初任研で最初は半ば仕方なく来た研修でしたが、想像以上におもしろくて、また来年も参加したいなあと思いました。ワークショップでは⑦に参加し、とても楽しめましたが、他のどのワークショップも興味深かったです。日本にいてもどうしても世界のことが見えなくなりがちになりますが、昨日今日は日本にいながら世界のことに目を向けた2日間だったと思います。(歌とおどり, 1回目, 特別支援学校, 2013)
8. こんなに楽しくて、ラクチンの研修とは思ってもみなくて、大満足です。私は毎日図書館にいます。中・高図書館はまだまだ、メディアは本のみです。しかし、図書室→ものづくり、動く。何か、ヒントがありそうです。教員への営業ネタ作りに今回のワークショップが使えるそうです。ありがとうございました。(ものづくり, 1回目, 学校司書, 2013)

### 3) 2012年の記述例

1. 初めて民博に来館しました。見るものすべてがとても迫力があって、その国に来たような感覚になりました。ワークショップは内容が充実していて、実際に触れたり調べたりできたことがよかったです。授業で子ども達に教材を与えた時は、同じようにたっぷり合わせてあげることが大事だと思いました。織機をつくることはとても難しく、まず仕組みを理解することに時間がかかりました。私たちが何気なく目にする布の折り目を見ると様々あって、糸の材質や織り方の違いに気付いたり、実際に織ってみてなぜ糸が重なって織られていくのがわかり、とてもおもしろかったです。時間がもう少し欲しいと思いました。本当にありがとうございました。(機織り, 1回目, 小学校, 2012)
2. 展示にさわることができるので、大きさや、材質感が実感できるのがすばらしいと思う。ワークショップではとてもいいに教えて頂き、とても集中して取り組むことができました。(機織, 2回目, 小学校, 2012)



3. 民博には何度か足を運んだことがあったのですが、利用方法について詳しく知らなかったのが、データベースやほとんどの展示物がさわることができるなど分かって役に立ちました。また、30万点ほどの展示物が保管されていることも初めて知りました。ワークショップでは仮面づくりを通して、自由に表現する楽しさを感じることができました。貴重な展示物も見せて頂き、たいへん貴重な機会だったと思います。学校の授業でもよりよい活用のしかたを考えていきたいと思いました。(仮面, 1回目, 中学校, 2012)
4. 一日中とても楽しく、とても勉強になりました。博物館を利用した「学び」として、具体的に何が出来るのか、まだなんとなくですが「こうしてみたい」と思っています。実際に、目で見て、手で触って、あるいは臭いをかいてみることができるので、子どもたちにとっても、座学などより、よほど「学び」として定着するだろうなと感じました。できればですが、一日の進行予定が書かれた紙が配布資料の中にあると、助かります。「織り」体験ですが、アイヌの文化学習という実践例もあり、とても勉強になりました。自分の教科でもなにか応用できないか、勉強しようと思っています。(機織り, 1回目, 高校, 2012)

#### 4) 2011年の記述例

1. 昔から、この民博によく来ていますが、こんなに楽しかったことは、初めてです。知らない方に、自分のことをわかってもらうためにも、自分を表現するために、‘もの作り’は大切ななとしみじみ思いました。お世話して下さったみなさま、ありがとうございます。今日の経験を、自分の子どもたちに伝えるように、努力したいと思っています。(仮面, 1回目, 小学校, 2011)
2. すごくたのしかったです。まだ授業に活かせる…までマスターしてませんがぜひとり入れたいと思いました。解放感と充実感でいっぱいです！(歌とおどり, 1回目, 中学校, 2011)
3. 新学習指導要領の内容をよく分かるように教えていただいたので、すぐ指導案を書くさいに役立つので嬉しい。ワークショップでは、事前学習、事後学習にも使える小道具が多く、ゲーム感覚で、分類したり考えたりが新たな発想を生み素晴らしいと思った。今度は踊りや、エケコ人形など体を使うモノ作りなども体験したい。(ことば, 2回目, 中学校, 2011)
4. ワークショップが楽しかったのはもちろんのこと、ワークショップの開催のノウハウを学ぶことができました。前半の講義、後半のワークショップと構成もよかったです。ミュージアムツアーに参加する人とさらに講義を聞く人へと選択できればいいなと思いました。来年も知り合いの先生を連れて参加したいなと思います。ありがとうございました！！(インド, 1回目, 高校, 2011)
5. 初めて参加しました。様々な校種の先生方の集まりはあまりないので、新鮮でした。学校から遠くない場所に民博があるので、活用と真剣に考えさせていただきたいと改めて思った。ワークショップは「モノ」の見方を本当に深めてもらった。これをどのように現場で活用できるかという部分が課題である。考えていきたい。しかし、何か利用融合とか世界が広がったという実感はあるので次につなげたい。(インド, 1回目, 高校, 2011)
6. 民博には過去2回来たことがあります。1回目は高校生を夏の夏休みに学校に出された課題として2回目は大学生の、万博に遊びに来たついでに行きたいと言う友人に合わせて来ました。どちらも「自ら」ではなく「しょうがなく」来たものでした。そういった状況で見た民博は楽しいものではなく、得るものはありませんでした。今回3回目としては「行ってみよう」という意識で来させていただきました。動機と興味、関心がある状態であるのとそうでないのでは大きな差を感じました。教員という立場でこれから生徒を指導していく中で動機興味関心をひき出せる存在にならなければならないと改めて強く感じました。(エケコ, 1回目, 高校, 2011)
7. 今回、研修ワークショップには初めての参加でしたが、自らが体験することによってより身近に感じる事が出来たし、自分の引き出しが広がりました。自分自身が楽しめることはとてもよかったです。ありがとうございました。(エケコ, 1回目, 学生・院生, 2011)

8. 元小学校教員でした。三年生の子ども達に国際理解教育の第一歩になればと外国の話や絵本を読んだりした時もあったのですが、話すばかりで活かされず、まさに今日の午前中の「理解」とどまるばかりでした。(理解もできているのか…)しかし、このようなワークショップを開き勉強し、私自身が力となれば、子ども達に実際に体験させられるような授業が作れるのではないかと考えています。積み重ねて引き出しにたくさん入れていきます。残念ながら今は教員ではありませんが、また来年から子どもたちの前に立って仕事をしていきます。少しでもその時に生かすことができればいいなと思います。ありがとうございました。(歌とおどり, 1回目, 元小学校教員, 2011)

## 5) 2010年の記述例

1. どこ国でも何気ない身の回りの道具に込められた思いや意味があり、それを子どもたちに考えさせる、込められた意味にせまらせるという時に、今回のように自分で本物を見て、それを作るという作業は、とてもいいと思う。自分で実際にやってみると、簡単に見える作業も何かしらの発見が必ず出てくるので、何か同じような取り組みを行ってみたいと思った。また、安価で入手しやすい材料を使うこともとてもいいです。いい体験が出来ました。ありがとうございました。(砂金, 4回目, 小学校, 2010)
2. 五感を使って自ら体験するワークショップは楽しいです。自然と頭に残ります。今日は③の音についてでしたが、また別のワークショップも体験したくなりました。私は数学の教師ですが、例えば今回のようなワークショップの中でどんなことが授業に生かせるのかイメージできません。ワークショップの楽しさは少しわかるのですが、授業にどうつながるかはこれからの課題だと思っています。(音, 1回目, 高校, 2010)
3. 今回生まれて初めて「国立民族学博物館」に足を運び、初めてワークショップに参加して、初任者としてだけでなく、教員として学ぶことがたくさんありました。今あるものを守り、伝えていくことは、教員として大事なことであり、またテーマを持って行方が指示しすぎないことも勉強になりました。国際理解教育を通じた自尊感情の芽生えは特に印象に残っています。(音, 1回目, 高校, 2010)

## (2) 否定的な記述および改善意見

アンケート全体としては、否定的な意見はプログラムの時間設定や配分、「学習」環境などへの不満があった。しかし記述としては、改善意見や希望の方が多い。主なものとして、見るだけの博物館ではなく、さわるなどハンズオンへの希望、ワークショップの時間をもう少し長くとってほしいなど、の意見が多い。また、他の記述の中にも改善にむけた記述や希望があるが、ここでは、より明確に、否定的な記述や改善意見、民博への希望が見てとれるものを取り上げた。

## 1) 2014年の記述例

1. 初めて民博を訪れましたが、もっといろいろな物が展示されていると思ったが、少し少なく思いました。それと触れる物がもっとあればと思いました。ワークショップはグループの方々と楽しく会話しながらすすることができ、良かったです。(カカオ, 1回目, 小学校, 2014)
2. 吹田で働くようになり、万博に来ることが増えましたが、民博に来たのは今回が初めてでした。ぜひ、生徒と一緒に来たいと思いました。ワークショップも小学生の実践があるものでとても楽しかったのですが、専門的な方がたくさんいらして、とても難しかったので、子ども目線で考えられたらもっと良かったと思います。ありがとうございました。(ことば, 1回目, 中学校, 2014)

3. 民博だからこそできる、もしくは民博でなければできないそんなWSを体験したいです。是非、展示室で資料に触れながら、体験できるようなWSを企画して下さい。(ことば, 1回目, 博物館関係者, 2014)

## 2) 2013年の記述例

1. 博物館にある「ホンモノ」を手に取り、感じるにより、興味・関心が広がる学びになる可能性を感じた。私は高校(普通科)の教員です。ぎりぎりのカリキュラムの中、こういった博物館での学習を取り入れる難しさもあるように思う。来れば楽しい学習になると思うのですが。(ことば, 1回目, 高校, 2013)
2. 午前中はワークショップの定義や博学の歴史を聞き、この研修の奥深さを知ることができました。午後からは「ものづくり」でアイヌ文化のことを知れた。小学生の時にアイヌ彫りを体験しましたが、それから何十年たって、アイヌに触れることによってより興味深くなりました。iPad ミニを使った活用では簡単にmovieを作れるやり方を知り、大変勉強になった。自分が知らないと子どもたちに教えることができません。自分を高めることって大切だと思いました。気になるWSがいくつかあったので午前・午後とそれぞれ開催してほしいと思いました。(ものづくり, 1回目, 特別支援学校, 2013)
3. 博物館の利用(教育の現場)の具体的な方法の一つが知れてよかったし、「みんぱく」の教材も見れて良かった。しかし、支援学校(高等部所属)に勤務しているので、どう利用できるか、どう応用されるかが今後の課題だと感じた。具体的な方法や支援学校での実施例があれば教えて欲しい。ワークショップではこういう方法で異文化理解が出来るのだと驚いた。楽しく学習でき、かつ修学旅行等の宿泊学習の事前学習として今後使いたいと思った。(すごろく, 1回目, 特別支援学校, 2013)
4. 面白かったです。講師の方も指摘されていましたが、若干盛りだくさんすぎて消化不良気味ではありますが、色々な意味で勉強になりました。ありがとうございました。カフェ懇談会の会場の中央の大きな柱4本がとても“じゃま”でした。それからもう少しゆっくり参加者、講師間でお喋りしつつ、振り返りの時間が持てるとうよかったなあと思います。(フェアトレード, 1回目, 博物館関係者, 2013)
5. 具体的で手にとれるモノを介して活動できてよかった。グループの人数もちょうどよかった(5人が1グループ)グループ内での検討、話し合いや、③内での意見。シニア。時間がもとおもしろかった。他の先生方と話せたのもよかった。みんぱくでの活用実践例の報告(集)も、そのうち実践が増えたら読んでみたい。もう少し広い部屋で長い時間あるとうよかった。各グループで集まって話し合うに不向きだったので。(みんぱく, 1回目, 大学非常勤, 2013)

## 3) 2012年の記述例

1. 美術の授業の中で、仮面をつくるとなると、ここ(みんぱく)に来てしらべたり、音楽だったり、気になるものがここには多くあります。今回たまたま授業のことで考えていたら、ワークショップをみつけてきました。何か、ネタといいますか…あればと思われて…ビデオや「音楽」(音)をお借りできたらいいのに…と思いました。ありがとうございました。(仮面, 1回目, 中学校, 2012)
2. 学会員と教員の協同による実践の用意に大きな可能性と深い意義があることはよくわかった。博物館と学校のそれぞれの教育的可能性を拡大する契機になるのだろう。しかし、現実に博学連携はどれほど進んでいるのだろうか?大きな可能性の割に進んでいないように思うのだが…。学校の教員の多さも要因なのだろうが、両者の連携で、それぞれの能力を生かしながら効率的なカリキュラム作りにつなげられるはずだと思う。その意味でも今日のような試みを、関東でも開催してもらいたい。私は、東京の大学で教職課程を担当しているが、来年度から学芸員課程も兼任することとなったので、大学教育における博学連携を試みてみたい。刺激的なWSをありがとうございました。PS.参加費をとってもよいくらい充実した企画でした。(歌とおどり, 1回目, 大学教員, 2012)

3. 展示場の空気を感じながら、博物館ならではの体験製作ができると良いなあと思いました。そのモノにこもった人々の思いにふれることなしに国際理解教育はできないので、そのコンセプトの部分をワークショップで語っていただけたら嬉しいです。現場でいつも出来る指導とは違う、導入、指導法を学べると良いなあと思います。(仮面, 1回目, 院生・小学校, 2012)
4. いつもながら楽しいワークショップの数々で一日があつという間に過ぎていきます。こんなワークショップをもっと多くの学校の先生方に知ってほしいです。年々先生方の参加者が少なくなっていくのがもったいなく思い、さびしく感じています。(手学問, 6回目, MMP, 2012)
5. 初めて参加しました。今まで何度か校外学習の付添で来たことがあった“みんなく”でしたが、別物でした。こんなにおもしろいところだったんだと改めて思いました。ワークショップについてはもっと時間をさいてもいいのではないかと思いました。さわっておどろく「手学問のすすめ」に参加。アイマスクをして見ない状態で手の中で触る、歩く、連れて行ってもらう、大きなものを触る。すべておどろきでした。子どもたちへのアプローチの一つにしたいと思います。ふりかえりのビデオはとても良かった。(でも初めに撮影することを伝えてほしかったです。)ありがとうございました。(手学問, 1回目, その他, 2012)

#### 4) 2011年の記述例

1. 午前中のプログラムが盛りだくさんすぎると感じました。どれもじっくりお聞きしたかったので、時間が短いのが残念でした。ミュージアムツアーの時間も、もう少しとって頂ければと思います。午後のWSはとても楽しかったです。担当して下さった先生方の明るさにとても助けられました。ありがとうございました。日本人にはとてもなじみ深いはずのグアムの文化や歴史が語れるのは素晴らしいですね。自分の教材づくりの参考にさせていただきます。ありがとうございました。(歌とおどり, 2回目, 高校, 2011)
2. ミュージアムツアーの時間がもっとあると良かった。(一つの展示だけでよかったと思う) MMPの話をもっと詳しく聞きたいと思いました。(時間が不足) ワークショップは時間が不足、内容が多すぎた? (ことば, 1回目, 高校, 2011)
3. エケコ人形作りを通して、手作業で何もかも作ることの楽しさを久しぶりに味わった。パソコンとかの作業よりも頭のなかにどんどんアイデアが浮かんでくると思った。ワークショップが6つあったが、ダンスも体験してみたかった。午前と午後で各一つずつのワークショップを体験できないかと思った。(エケコ, 1回目, 特別支援学校, 2011)
4. 全体的に短い時間に内容がたくさん凝縮されていた。ツアー、ワークショップ、講義のうちツアーが余計かと思ったが、参加されていた先生方の意見には、ツアーの楽しさ、理解の深まりを感じておられた方がいたので必要性があったのだと思直した。他のグループのワークショップがいまいち何をしたのかが分からなかった。次回も参加してもらうためにはそれもありかなと思った。ワークショップの人数が少し多いかなと思った。ワークショップのデザインとノウハウと上羽さんの話が魅力的に話されていて面白かった。(インド, 1回目, 博物館関係者, 2011)
5. ワークショップの時間をもう少し長くとっていただけたら、と思いました。(あと30分) (インド, 1回目, 学生・院生, 2011)

#### 5) 2010年の記述例

1. 笹原先生のお話、渡辺さんのお話、普段聞くことが出来ないのて聞くことが出来て、大変良かったです。笹原先生の昨年のお祭りの映像がビデオテープに入っているといいです(日本の祭りはあまり資料がないので。特に新しいものが)。収蔵庫の仮面を触ってみることもでき感激です。仮面の製作に時間が足りずあわてました。もっと語る時間(語るというより、語り合う時間がいかがも)もあればなおよかったかもしれません。ありがとうございました。(仮面, 1回目, 小学校, 2010)

2. 午前中の時間設定に少し無理があったように思います。(準備時間が必要。交代など) 午前中の時間設定がせっかく用意されているので、挨拶は短く！(司会進行も含めて2人で10分のはず) 午後のワークショップはいろいろと準備していただいて、良い体験ができました。MMPのみなさん、ありがとうございました。小学校の児童に織物を楽しんでもらえるようにはどのような工夫をすればよいか、しっかり考えたいと思います。(じゅうたん, 1回目, 小学校, 2010)
3. 個人の研修として参加しました。以前, 学校へチラシ類を送っておられたように案内を送っていただけたら, 出張で参加できるかもしれません。当初の申し込みの際, ⑥のワークショップは今年度開かれないとのことでしたが, 変わってもよかったですか。複数のワークショップには参加できなくても, セミナー資料の配布を希望します。(仮面, 1回目, 小学校, 2010)
4. 視覚支援校の勤務時, 見学に来た時に比べて改善されているところがわかりました。ただやはり, 音の情報がせまい空間にはらんしているように思います。音響工学(?)の方にも見ていただいてもう少し音が整理できるとよいと思います。(コーヒー, 1回目, 特別支援学校, 2010)

### (3) 参加したワークショップと関連した記述

各ワークショップの内容と方法のクオリティが高いので, 体験から得られる学びが大きいことがわかる。したがって, 「帰ってから使える」, 「一度自分もやってみたい」など, 転移可能性, 活用可能性を示す記述も多い。ここでは, 特にワークショップでの学びが大きいものをとりあげた。また, ワークショップによっては, 年度によっては初めの実施だったので, 今ひとつねらいや意図が伝わっていないものもある。ワークショップは基本的に年度をまたがって連続的に実施されるので, 改善意見は担当者には参考になっている。

#### 1) 2014年の記述例

1. 初めての参加でしたが, すごくためになった一日でした。一粒のカカオ豆から, いろいろな世界が見えてきました。あま〜いチョコレートは苦〜いカカオ豆から。それと同じように, 裏側には生産者の苦〜い問題がみつてくるのだと。学校に帰ったら, 子どもと一緒に考えたいです。(カカオ, 1回目, 小学校, 2014)
2. 昨年度一番印象に残っていた展示を題材にしたWSだったのでとても嬉しかったです。また, 授業実践に活かせるようなヒントを得ることができて良かったです。(モノとの対話, 2回目, 小学校, 2014)
3. お隣の韓国だけど, こんなに異文化を感じるとは思わなかった。他の人たちと意見をシェアすることで, 視野が広まりました。ありがとうございました。(みんぱく, 1回目, 中学校, 2014)
4. 自分でも「すごろく教材」を作り, 子どもたちにも作れるようなワークショップができればと思いました。(すごろく, 1回目, 中学校, 2014)
5. すごろく, とても嬉しかったです。発達段階によっては, 変えなければならないトコロがたくさんありますが, いつか, 自分のクラスの子たちができるよう, 工夫していきたいと思います。ありがとうございました。(すごろく, 1回目, 支援学校, 2014)
6. ワークショップ④はとても有益でしたが, もう少し参加者も発言できる機会があればいいと思いました。(ことば, 1回目, 大学教員, 2014)
7. 言葉と文化に対して, 考えさせることが多かった。WS④が何を意図したものであったのが, 私にはもうひとつの理解できなかった。(ことば, 7回目, MMP, 2014)

8. ボランティアとして外国人（成人）に日本語を教えているので「言葉と文化への目覚め」に参加。教育方法について、勉強になったが、参考になるものを求めたが残念ながら見つけれず。（ことば、2回目、MMP、2014）

## 2) 2013年の記述例

1. 「みんなばっく」（ソウルスタイル）を以前にかりて、子ども達に見せたことがあります。その当時はとにかく、視点がユニークで、自分の興味関心だけで、突っ走ったように記憶しています。しかし、今日落ち着いてみんなで知恵を出し合うといういろいろな選択ができるのだと気付きました。学校へ帰って実践にうつしてみたいと思います。ありがとうございました。（みんなばっく、1回目、小学校、2013）
2. フェアトレードについて大変楽しく参加させてもらえました。すぐに授業に活用させて頂けるようなものばかりでした。フェアトレードだけでは解決できないけれど買い物をすることで国際協力のきっかけになるというお言葉が印象深かったです。（フェアトレード、1回目、中学校、2013）
3. 大変、楽しくてためになる講座でした。アイヌについては以前、民博で展示があった時に展示を見てある程度の知識はあったのですが、実際に先生のお話も聞いてさらによくわかりました。以前得たこともまた忘れてしまうので繰り返し、いろいろなことを知ることが大事だとわかりました。Imovieの使い方も初めてなのに、すぐにできそうでした。（時間がなくて未完成に終わったのが残念です。もう少し時間があれば……）完成したのです。機会のことはよくわからない私でも授業にも使えそうな気がします。（ものづくり、3回目、高校、2013）
4. 英語科の教員です。小学校での英語の授業が始まり、先生方が苦勞されていると聞きました。また教室の中には様々な外国にルーツを持つ生徒たちが増えてきています。一方で英語（外国語や外国文化も？）に関心を示しながらない生徒たちも少なくなく、この状況をなんとか打開できないかと日々考えています。ことばは文化ですし、異文化理解は他者理解です。人も自分も尊重できる子に育てたいという思いのもと、今日いただいたたくさんのヒントを自分なりに噛みなおし、現場で活かせるよう少しがんばってみたいと思います。ありがとうございました。（ことば、1回目、高校、2013）
5. 博物館を利用する際に、ただ生徒に見学させるだけでなく、事前学習でiPadで作ったビデオを見たり、事後学習で見学内容に合わせたものづくりなど活動の幅が少し広がったと思います。みんなの資料も解決していただくことで理解が深まりました。特にアマゾンのコーナーでは、動物のはくせいとその動物の製品、民具をはじめと一緒に展示したことなど、話を聞いてみないと気づきにくいことのように思いますので、とても良い時間になりました。他のワークショップの内容も分かりやすく知れてとてもお得でした。（ものづくり、1回目、高校、2013）
6. とても楽しく、学ばせていただきました。ダンスや歌を通じてミクロネシアの文化や大切にしてきた中ルーツに出て、触れることができ、ミクロネシアに興味がわき、自分自身がミクロネシアについて学びたいになりました。また、今回学んだダンスや歌を使って、子ども達と一緒に踊ったり歌ったりして、日本以外の国について学びたいと思います。（歌とおどり、1回目、高校、2013）
7. フェアトレードを学ぶ、ではなくフェアトレードで学ぶということにどうつなげるかが難しいと感じた。恥ずかしい話ですが、フェアトレードの話についていけないことも多く、少し戸惑ってしまいました。映像などあればもっと興味を持って意見交換ができたかもしれない。（フェアトレード、1回目、特別支援学校、2013）
8. 初対面の先生方とすごろくを楽しみ、（もう少しやりたかったです。）次に自分たちで中国・韓国についての問題を考えました。問題を作るまでにたくさんの展示物を見、それだけでも収穫になったのですが、それに加えて他の先生方が考えられた問題もみんなで解答し、楽しみながら学ぶことが出来ました。児童生徒にも活用できるワークだった（子ども達はきついきいきと参加するだろう）と思いました。（すごろく、1回目、特別支援学校、2013）

9. 「みんなぱっく」はとてもいい企画だと思います。しかも無料で貸し出してくれるなんて！という感じです。種類もいろいろ用意されていて、自分や生徒に合ったものを選べるので良いと思う。グループごとに意見を交換し合うことで、面白い発見が多くあった「大阪パック」を作ってみては、という意見も面白かった。最後のカフェ懇談会も楽しめました。どのワークショップも充実していたようで、また他のものにも参加してみたい。(みんなぱっく、1回目、特別支援学校、2013)
10. 日本人は外国語＝「英語」が原則と思っているが、実は英語だけでなく、その他の国の言葉を必要としている(背景にある)ということにびっくりした。学校では、重度の児童をみているので、今回のワークショップをどのように生かしていけばいいのか考えてみたが、なかなか思いつかなかった。でもはらべこあおむしが各国たくさんのごとばであるのをみて、人権学習の外国の方との交流の言葉とつながられたらおもしろいだろうなと思った。様々な言葉があつてとても面白いと思った。(ごとば、1回目、特別支援学校、2013)
11. 本当に内容が充実していて、夢中で参加していました。ガムがスペインに300年間も統治下にあったことを知り、驚くと同時に独自の文化を大切に守ってほしいとつくづく思いました。同様に日本というわが国の文化についても大切にしたいと思いました。のびのびとしたダンス、汗だくになりましたが楽しかったです。子ども達にも、ダンスを通して気持ちを表現したり、発散できることを活用の中で生かそうと思います。(歌とおどり、1回目、適応指導教室講師、2013)

### 3) 2012年の記述例

1. 織機のワークショップに参加させて頂きました。最初は織機の複雑そうな構造、専門用語の数々に本当に作れるのだろうかという不安ばかり募っていましたが、MMPの方々のお助けをお借りしながら、織機をなんとか作り上げることによって、織機や布づくりの歴史や文化をぐっと身近に感じました。「イギリスの産業革命は織り機の発明がはじまりだった」という話をきき、私自身、イギリスの産業革命のことが印象的に、鮮やかになったように、生徒にもこのような学びや気付きをさせたいと思いました。今日は本当にありがとうございました。(機織り、1回目、高校、2012)
2. 私が参加したワークショップは当初思っていたものとまったく異なっていました。ただ単に触れて終わりというくらいに考えていたのですが、「見ない」ことでまさに全身でモノに触れることができました。見る以外の感覚を使うことでとても印象に残りました。また民博の教員の方、同志社女子大のスタッフの方の気持ちの良い対応に感謝いたします。(手学問、1回目、高校、2012)
3. さわっておどろく「手学問のすすめ」に参加しました。アイマスクをしてトータムボールに触った際に思うことができました。さわってよく見る、と思って触っていましたが、けっきょく、頭の中にある視覚的なイメージに、触って感じたものを当てはめて、何を触っているのか認識しているなあと感じました。視覚障がいの方の疑似体験をしているわけではないということで、自分の認識の仕方を考えながら参加していました。手でさわることと視ることを合わせて、知っていただけたらいいと思いました。展示物を触りたい！！とずっと思っていたので、今日参加できてうれしかったです。ありがとうございました。(手学問、1回目、特別支援学校、2012)
4. 家庭科の教師です。織のことがよくわかっていなくて基本を知りたくて⑥に参加。とっても知りたかったことがわかって満足です。個人的には、宗教や多文化の様々なことに興味を持っているので、今日午前中に少し展示物の紹介をうけたヨーロッパのキリスト教文化やヨーロッパの今日についてなどほんの短い時間でもたくさんの方の話を聞いて頂き、一層興味が深まりました。知れば知るほど質問したいことが次々と出てきます。わからないことがわからないという状態から、まずこの展示で知りたいと思い興味関心が深まっています。生徒にどう教えるか以前に私自身が世界や国内の様々な文化、知識、知恵にもっともっと触れたくてワクワクしています。ありがとうございました。(機織り、3回目、特別支援学校、2012)

5. ハンズオン展示室を五年前より担当してきたが、今回参加することで、ハンズオンを越えて！というねらいが、身にしみた。触って、あそべて楽しいといった現状を抱えているが、今回③のWSに参加し、見ないで、アイマスク着用のもと、触ってじっくり見た！見えた！見る事が出来た、という体験をした。目では得たつもりでいた、得られなかった情報を触ることで、じっくり見る（視覚ではなく触覚で）ことができ、物をする事が出来た。沖縄で、ハンズオンを越えたいと思った。現場で実践してみます！ありがとうございました。（手学問，1回目，博物館関係者，2012）
6. このワークショップに初めて参加させて頂き、驚きと発見が多かった。まず、博學連携のすばらしさや今までの知識不足を感じさせられた。博物館の探究ルームは非常に興味深く、感動した。分科会（ワークショップ）は、神話と歌、おどり、歴史、全てが繋がり、楽しみながらやりたいことをしっかりと学べる体験だった。ワークショップの意味をしっかりとつかむことができ、実践することができると思った。応用して、私の研究にもつなげていきたいと思う。本当に素晴らしいワークショップを企画していただき、ありがとうございました。（歌とおどり，1回目，学生・院生，2012）
7. 仮面を「知る」では、日本文化と実物をふれたりでき、仮面がそれぞれ持つ「存在価値」を学ぶことが出来た。また、「作る」では色々な素材の中から自分の使いたいモノを自由に選択して、気のおもむくままに作りました。一番良かったなと思ったのは、楽しくできたことです。「知る」という部分では身近なところにあった文化が、知らない地方の文化について、「作る」では自分を表現するという面において楽しさを感じました。一方で感じるだけでは終わらず「なぜこのような形や色を使ったのか」「一体何に使って、どのような意味を持たせたかったのか」という、思考の拡がりもあり、良かったです。（仮面，1回目，学生・院生，2012）
8. 想像以上に楽しかったです。皆が一体になる歌と踊り、すごく素敵でした。展示場ではゲストまで巻き込んでしまっていたところにパワーを感じました。日本が関わっているのに、全く知らなかったグアムの歴史も教えて頂き、とても勉強になりました。他のワークショップも受けてみたいくなりました。ありがとうございました。（歌とおどり，1回目，学生・院生，2012）

#### 4) 2011年の記述例

1. ワークショップでエケコ人形作りをしましたが、やはり自分で作ってみるということが大切だと再認識できました。実際作ると、作る前には、「完成をきちんと」と考えていましたが、作り出すと、そんなことはどうでもよくなり無欲で取り組みました。子どももそんな風に作品作りをしているのだらうと改めて感じる事ができたと思います。ありがとうございました。（エケコ，1回目，小学校，2011）
2. 1つのモノに背景があり人々の暮らしがあることを実感できるワークショップであった。次に教材をつくる時にヒントにしたい。ワークシートにある流れ、イメージも大切にしたいと思いました。豊富な情報と関係で培われたものを教材にして下さり、ありがとうございました。みんなは大ききなので、子ども達をまたつれてくるときに、工夫したいので、こういう機会に参加して勉強したいと思う。（インド，1回目，小学校，2011）
3. 私は理系のことばかり勉強してきたので、ことばの世界は新しい発見が多かったです。自分が思っているよりも、ことばは深く、歴史や人口などの関わりがあって興味深かったです。博物館を見学していて、これだけおもしろいものほもっと活用していきたいと思った。しかし、生徒を連れていくには多くの課題や工夫が必要だと感じた。（ことば，1回目，中学校，2011）



4. 今回の仮面づくりのワークショップの体験、とても楽しく、また形を残すことができたことに、とても喜びを感じました。作るだけでなく、映像と解説で、どんな仮面があるのか知ることができ、また、実際に触れてみるという非常に貴重な体験をさせていただきました。私自身、強く感じたことは、異文化理解ということよりも、仮面を作ることで、無意識のうちに心の中が表れてくるということです。それを理解したうえで、このワークショップをうまく活用できれば、本当の意味での異文化理解、多文化共生ができるのではと思います。本当に楽しかったです。ありがとうございました。(仮面, 1回目, 学生・院生, 2011)

## 5) 2010年の記述例

1. デザインが自分で自由に決められたらもっと面白いと思いました。また、出来たデザインが何を意味するのかの説明があればいいと思いました。(砂金, 1回目, 高校, 2010)
2. 今までここまで音について考えたことがなかったので本当に勉強になった。チャルメラやギター、ゴング、太鼓にはそれぞれ何らかのために使われていたことを知った。どの楽器にも歴史があり、多様な使い方があることを学べた。研修を通して私たちに周りには様々な文化があり、何かしらの目的があってそのようなもの、生活になったことを改めて感じる事が出来た。また、日本の文化をもっと学んでいきたいし、学ばなければならぬと思った。(音, 1回目, 高校, 2010)
3. カタチのないもの(音)を取りあげるには、内容、やっていることに行き先が見えず、終わった後の達成感が得られなかった。「思いを込めた音」をつくるには、相手との関係、動作、愛着を持つための工夫が大切になると思うが、もっと、目に見えるような分かりやすさがほしい。音の背景を取り上げる(音楽しているのか、生活しているのか)竹、素材、ハワイ、打つ、フラダンス相手と音を合わせる……異文化体験、比較をするのか、それとも音をあわせて楽しむのか。少しずつ仲間を増やしていくとか今回のWSのねらいを聞きたかった。と言うよりも私を感じ取れなかったのかもしれない。(音, 1回目, 博物館関係者, 2010)
4. 「コーヒーについて知ってもらう」という面では大変充実していた。フェアトレードについては、もう少しマージンやグローバリゼーション等の問題について掘り下げていくことができたら更によかった。どうもありがとうございました。(コーヒー, 1回目, 博物館関係者, 2010)
5. 小学生のとき、校外学習でこの広い施設の空間で、ただなんとなく大きいかめんや知っているものに足をとめながら歩きまわっていたこの場所で、一つ足をとめて、じっくり考え、視て聴くことに面白さを感じることができました。「ことばの不思議・魅力」では、世界の言葉について、学校ではどのように取り入れるかについて考えました。民博の言葉のエリアには、世界中のはらぺこあおむしなどのたくさんの絵本があります。同じ、物語でも、文字が違うだけで、全くちがうものに見えたり、言葉を発音してくれる機器を使えば、そのおもしろさを感じられます。民博を使って出る、なぜ?! どうして? が教育に上手く生かせるような授業をたくさん考えつけたとてもいい機会でした。(ことば, 1回目, 学生・院生, 2010)
6. ことばの文化の中に文明の発祥地も紹介してほしいし、日本文化とのつながりをお願いします。人のつながりが必ず必要で個人的に世界遺産を勉強しているので多くの人々をよびこみたい。(ことば, 1回目, その他, 2010)

### (4) 学校や授業への転移の可能性を示す記述

記述を見る限り、参加回数にかかわらず、転移可能性を示す記述が見受けられる。2014年では「みんぱっく」のワークショップ参加者の記述が結果的に多くなったが、その理由は、「みんぱっく」がすでに、アウトリーチ型教材としての内容と使い方が確立しているからかもしれない。2012年は学生が多いが、そうすると直接的な体験の印象記述が増えて、学校でどう行かせるか、生かしたいといった転移の可能性の記述は少ない。

## 1) 2014年の記述例

1. みんなびつくの事を学校に帰ったら、伝えたいと思います。物を手に取って見たり、注目して一つの事を考える、ということがこんなにも興味深くいろいろな発見のあるものだとは気づきませんでした。大人が本日、これだけ夢中になったのですから、子どもはなおさらだと思います。また、ぜひ授業の中でも使ってみたいと思います。ありがとうございました。(みんなびつく, 3回目, 小学校, 2014)
2. モノの後ろに見えてくる人々の暮らし(伝統的の物・現代の物)や歴史、価値観がある事、子どもを気付けさせる手法を学びました。やけに伝統的なものでなく、今の韓国の子どもの生活が見えるところが魅力だと思いました。みんなびつくをぜひ使いたいものの、教材授業とリンクさせて許可をもらおうと思うと、(5)6年生を持ったときに限定されてしまうので、「国別のパックだけでなく、「子どもの遊び」「誕生日」「お正月」などテーマ別にしていろいろな国のものが集めてあると、1年生から使うチャンスがあり、多くの国の比較ができるので、ぜひテーマ別多国籍のパックも使って頂けると嬉しい」です。(みんなびつく, 3回目, 小学校, 2014)
3. とても社会の授業で使える内容だったので、すごく良かったです。もう一度一人で民博に来て、じっくりまわって授業のネタを持って帰りたいと思います。実物の重要性というものをすごく感じました。(カカオ, 1回目, 中学校, 2014)
4. 去年まで小学校で英会話助手をしていて、世界の文化を調べて紹介しました。今回の民博を通じて、自分の学習にもなりまし、生徒にも見せて、一緒に考えたいと思いました。とてもよい機会に参加できたことに感謝です。“勉強する”ではなく、“工夫する”を言葉にしていきたいと思います。(みんなびつく, 1回目, 高校, 2014)
5. 現職の方や研究されている方などの知識レベルや物の考えがハイレベルの方と交流できて良かったです。大学生らしく元気よく学びたいです。また「民博」へ戻ってきます。(カカオ, 1回目, 学生・院生, 2014)
6. 大変参考になりました。今後、演劇の手法を自分自身の気付きや異文化相互理解に生かしていきたいです。この様なワークショップがもっと頻繁に行われると良いと思います。できればもっと交通の便が良い所でも行ってほしいです。3月に毎日新聞ビルで行われた民博のセミナーに行きました。あそこは便利です。(シアター, 1回目, 日本語教育助手, 2014)

## 2) 2013年の記述例

1. 民博はとても好きなので、今日のような研修に参加できてよかった。来年も参加したい。(歌とおどり, 1回目, 小学校, 2013)
2. 「みんなびつく」はぜひ使ってみたい。例えば2年生国語「スーホの白い馬」の教材を通して異文化理解につなげていけると思う。民族学博物館は好きで何度か来ていたが、こういった教員向けの研修があるのは、友人に誘われて初めて知りました。研究者の方の生の話を聞いて、すごく刺激を受けました。「みんなびつく」のメイキングについて聞けてよかったです。何をスーツケースにつめるのかということが面白い。(みんなびつく, 1回目, 小学校, 2013)
3. 踊ることで文化を知る楽しさを教えて頂きました。それぞれの国の歴史と交わりを知ることは大切ですが、未来を生きる子どもたちが文化、国際交流を楽しむことができるようなワークショップを教えてくださいました。博物館に連れてきてあげたいと同時にお面や道具の貸し出し方法も教えてくださいました。ありがとうございました。(歌とおどり, 1回目, 小学校, 2013)

4. 学生の頃に1度民博に来て、ものすごくワクワク胸がときめいていたのを今でも覚えています。なかなか家や職場から遠く、民博に来る機会はなかったのですが、このワークショップを知り、すぐに申し込みました。自分は英語にものすごく苦手意識を持って中・高と過ごしました。大学・社会人となった時、1人でベトナムやモルディで暮らすことがあり、言語を学ぶ楽しさを、他の言語を知る、話せるようになることで自分の世界がぐっと広がったことを体感しました。自分のこの経験を子ども達に伝えて、世界に興味をもつきっかけにいつも考えていました。今日は、実践してみようと思うことだらけで、1日があっという間に過ぎました。本当にありがとうございました。来年もぜひ参加したいです。(ことば, 1回目, 小学校, 2013)
5. 私は現在、支援学校で働いていて、今回参加したワークショップの教材は、支援学校の生徒には使いにくいかもしれない。ただ、私は以前に一般の中学校で社会科を教えていたので、そちらの方では、社会科の地理的分野の導入教材として、十分使える子ども達も楽しめるものだと思います。中学生にとって、地理的分野のとくに世界地理の学習は、子ども達にとってあまり身近に感じる部分が少なく、地理嫌いになってしまう子もいます。今日のワークショップの「月」「週」という題材は子ども達も身近なものであるし、今日のように各言語に分類した中から共通点を見つけ出し、またそれらを世界地図に照らし合わせることで、世界の地域のつながりが理解できるし、そこからまた、食べ物や衣服・宗教などのつながり、拡がりが見つけれられると思います。(ことば, 1回目, 特別支援学校, 2013)
6. 初めての参加であったが、知的に楽しめた。やはり、実物を見ることができて、さわられるものもあり、なおいのするものもあり五感をつかった全身体験ができるのは博物館の強みだなと思った。これを学校現場でどう活かすかとなると難しいところもあるが、「みんなぱっく」の貸出なども利用して、生徒が体験できる、そこから想像をふくらませるという授業を目指して今度、教材研究していきたい。(みんなぱっく, 1回目, 中学校, 2013)
7. ワークショップは良い体験ができたと思います。2～3年前からiPadなどのタブレットを購入して授業づくりに活かしたいと考えていたのでちょうど良かったです。ただ時間が短かったのが残念です。もう少しゆっくりと取り組みたかったです。MMPについては、将来「高校生向け」「支援学校向け」を絶対にとってください。活用したいと思います。(ものづくり, 1回目, 高校, 2013)

### 3) 2012年の記述例

1. 実際に自分で体験するワークショップで歌って踊るのでけっこう大変だったが、やっている間はとても楽しかった。違う文化を自分が体験するという経験は知識の理解以上に心に残るものになると感じた。子どもたちに違う国の歌や踊りを通じて文化を学ばせるという実践は異文化理解に役立つと思うのでぜひ実践してみたい。(歌とおどり, 1回目, 小学校, 2012)
2. 地域学習をしたり、博物館への見学に関する取り組み方のバリエーションになったと思います。ワークシート(問題)を教師が(一人で)作るより複数の教員も…または生徒にさせられるようなプランは楽しいかもしれません。一人の見方では偏った質問になってしまうところを、いろんな角度から考えさせられるきっかけになるのではないかと考えています。(そのためにはこちらの準備が大切なのでしょう…)博物館をただ「見るだけ」と考えている子どもたちが多いため、見学の仕方(目的)を今までとは違ったものにできる参考になりました。ありがとうございました。(すごろく, 1回目, 中学校, 2012)
3. 大変楽しいワークショップで参加して良かったです。ホットシートもタブローも初めて知る手法でした。新鮮で想像力を刺激されました。ぜひ来年もやっていただきたいと思います。最初の講演での「メタ認知」という言葉が印象的でした。ありがとうございました。(シアター, 2回目, 高校, 2012)

4. 博物館には、学習のきっかけや貴重有用な情報にあふれているものだが、学校教育への利用（とりわけ子どもに意欲的に学習させる方法には工夫が必要であるので…）にはなかなかつながりにくくとも考えていたが、こちら（教師）側の工夫次第で無限の可能性があるのだということを知った。“博物館”“学習”という敷居の高さを取り除き、単純な驚きや好奇心をうまく利用して楽しみながら学習できるようなアプローチの方法を考えていきたい。（すごろく、1回目、特別支援学校、2012）

#### 4) 2011年の記述例

1. 初めて参加させていただきましたがたくさんの事を教えていただきありがとうございました。子どもたちにかえしていきたくと思います。来年は違うワークショップに参加したいです。（エケコ、1回目、小学校、2011）
2. 「②の仮面」へ参加させていただきました。楽しかったです。こんな楽しい素晴らしい企画を今まで知らなかったのが残念でした。来年もぜひ参加させていただきたいです。今年度の仮面作り、さっそく学校に持ち帰り子どもたちと作る時、場を持ちたいと思います。来年度、若い先生にも伝え、参加させていただきたいです。近い茨木市ですから。エケコ人形を作ってみたいです。子どもたちといっしょに。（仮面、1回目、小学校、2011）
3. 図工専科として造形教育にかかわっているので授業に役立つのではないかと、参加しました。ハデハデのエケコ人形にびっくりしましたが、短時間で制作できるように準備していただき、スムーズに制作できました。ありがとうございました。高学年で平面で、私の夢・願いを実践していますが、立体でもエケコ人形で、実践できると考えました。国際理解教育という立場ではなく、造形教育という立場からも、民博は魅力的な所だとつねづね思っています。図工科としても「みんぱく」を利用したいと思いました。（エケコ、1回目、小学校、2011）
4. 言語に関係することは、音声・文字だけではなく、文化や生活にも深くつながるものだと改めて感じました。中・高で英語を教える者として、母語を大切にすることが、自分のidentityの確立につながるし、他の言語を学習することは、他人のidentityや価値観を大切にすることになるんだ。ということをしっかり伝えたいです。今秋には、校外学習で伺う予定です。事前学習の参考にもなりました。ありがとうございました。（ことば、1回目、高校、2011）
5. とても楽しく参加、制作活動をさせていただきました。人形も手作りで準備してくださってありがとうございました。また、素材もたくさんあり、満足できる出来になりました。嬉しいです。ものづくり+自分の希望を具体化できるという内容は、そのまま授業で取り入れることが出来ると思うので、実践していきたいと思います。本当にありがとうございました。（エケコ、1回目、特別支援学校、2011）
6. 人とのコミュニケーションにおいて「もの」のはたす役割は大きいなあ！と思いました！！ニューカマーの児童のいるクラスを持った時は、コミュニケーションの一つとしても、今日やった仮面づくりを取り入れたいと思います！！本日はたくさん学ばせていただきました！とても楽しかったです。ありがとうございました。（仮面、1回目、学生・院生、2011）
7. 子どもたちに言葉を通して世界を考えさせるプログラムがよく考えられていて、勉強になりました。織田先生方の解説も、普段見学のみに来ているだけですので、直接質問もさせていただいてうれしく思いました。参加した先生方が、もっと各学校に直接宣伝してはどうか？とても良い催しなので、と言っておられました。（ことば、1回目、元小学校教員、2011）

## 5) 2010年の記述例

1. 楽しく活動させていただき、ありがとうございました。子どもたちと遠足にきたとき、このようなワークショップがあればいいなあと思いました。グループ活動で今回のように人がついて説明してもらえるといいなあと思います。(子ども達には少し難しいので…) また来年も参加したいと思います。ありがとうございました。(仮面, 1回目, 小学校, 2010)
2. 距離的に遠い地方の学校と博物館が繋がれないか、と思い参加しました。修学旅行で訪れる事前学習なども考えるべきであると思います。大学生にサポートしてもらい、いろいろなやり方を教えてもらった。ありがとうございます。1から10まで。展示の中に入れたのはめったにない体験でした。他のワークショップもやってみたいものばかりでした。今夏、多くの博物館に体験に行きましたが、どこも子ども達にただ見るだけでなく、あの手この手で深い学習に導くにはと苦勞されておられて感心いたしました。(デジタル, 1回目, 中学校, 2010)
3. 初めてワークショップに参加しました。年に1度生徒40名を引率して国立博物館に来ていたのは、3年前です。その間に博物館が大きく変化したことに驚きました。展示に対するメッセージが明確になり、来館者にも伝わりやすくなったのではないかと感じました。ワークショップでは、博物館を利用するにあたって事前指導の重要性を改めて感じました。また、「デジタル・コンテンツは使った者の勝ち」ということも…。手間をおしんで従来の指導を重ねるのではなく、積極的に新しいものを取り入れることが大切だと思いました。次回、生徒を引率するときは国立民族学博物館のすばらしさを事前に伝え、生徒の学びが深まるように工夫したいと思います。その時にワークショップ①での体験を生かしたいと思います。今田先生、ありがとうございました。(デジタル, 1回目, 高校, 2010)

## 6 新しいアンケート項目の提案

本稿で分析の対象としたアンケートは、参加者の属性や回数（リピート率）を尋ねるほか、各回のワークショップにおける参加者の学びや印象をみるものであった。その意味で、ワークショップ担当者である日本国際理解教育学会会員である教員と国立民族学博物館の研究者の協働によるファシリテーションに対する評価をみるものであったといえる。

しかしながら博学連携のもう一つの目的であった民博への来館者、児童・生徒・学生などの引率、そして教員の授業での活用、学校での取り組みへの転移といった視点では、調査していなかった。

そこで、この視点も踏まえた新たなアンケート項目を提案したい。参加者の所属、参加回数、参加したワークショップについては従来の項目を踏襲した（項目1, 2）。また、民博との物理的な距離も知るために居住地に対する質問を加えた（項目3）。そして、新たに、午前の基調講演、午後のワークショップについては、5段階のスケール評価を加え、その理由も記述できるようにした（項目4～8）。さらに、ワークショップにおける学びの活用度を図る項目（項目9, 10）を加え、かつ、博学連携教員研修の活用の可能性をも問う項目も加えた（項目11）。最後に、リピーターの参加者には、教員研修のアイデアの活用的事实を尋ねるようにした（項目12）。

## 博学連携教員研修ワークショップ 新アンケート項目 (提案)

1. あなたの現在の所属は？

- ①小学校教員      ②中学校教員      ③高等学校教員      ④中高一貫校教員  
 ⑤特別支援学校教員      ⑥大学教員      ⑦学生・院生      ⑧自治体・博物館職員  
 ⑨MMP      ⑩その他 ( )

2. 教員研修ワークショップの参加は何回目ですか

- はじめて      2回目      3回目      4回目      5回目      6回以上

3. あなたの現在のお住まいは？ 都道府県及び市町村名をご記入ください

- ( ) 都道府県 ( ) 市町村

4. 午前の全体会の基調講演について

- ①大変よかった      ②よかった      ③ふつう      ④よくなかった      ⑤悪かった

5. 上記の評価の理由を書いてください。改善点もあれば書いてください

6. 午後の分科会について、どのワークショップに参加されましたか (キーワードでけっこうです)

7. 参加したワークショップについて

- ①大変よかった      ②よかった      ③ふつう      ④よくなかった      ⑤悪かった

8. 上記の評価の理由を書いてください。改善点もあれば書いてください

9. ワークショップで得たアイデアや学びを、授業などに活かそうとおもいますか (いかせますか)

- ①おおいに活かせる      ②活かせる      ③どちらともいえない  
 ④あまり活かさない      ⑤ほとんど活かさない (この場だけで終わりそう)

10. 上記の評価の理由について書いてください。

11. この教員研修での体験や学び、アイデアをどう活かしますか（複数回答可）

- ①学校の教科や時間、活動に活かしたい。授業で実践したい。
- ②学校、職場で話して、ワークショップでの学びのよさを伝えたい。
- ③来年もこのワークショップに参加し、学びを深めたい。
- ④学校、職場の友人、同僚をさそって、次のワークショップに参加したい。
- ⑤もう一度、自ら、国立民族学博物館を訪れ、ゆっくりと見学し、学び直したい。
- ⑥児童、生徒、学生とともに国立民族学博物館を訪れたい。
- ⑦国際理解教育、民博について興味関心をいただき、会員になるなどサポートしたい。

12. 二回目以降の参加者にお聞きします。この教員研修で得たアイデアや学びを、授業などに活かしましたか

- ①授業プログラムを作り、授業で実践した。
- ②ワークショップでの学び方のアイデアを、授業にも活かした。
- ③ワークショップの体験を、授業で話をした。
- ④ワークショップの体験を活かそうとしたかったが、まだ活かせていない。
- ⑤ワークショップと日々の授業を結びつけるのはむずかしい。

以上、ご協力ありがとうございました